

いっぺいといっぱく Vol.59



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【[によぜがもん](#)】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「[によぜがもん](#)」をクリック。]



おおらかさとは

私の知り合いが、古民家の土壁を直しているのですが、このやり方が面白いのです。普通なら、左官屋さんにお金を払って、キッチリと直してもらおうところですが、この方はチラシを作って参加者を募集し、お金を払うどころか、逆に参加者から参加費を取って、土壁を直す事をイベントにしてしまうやり方なのです。

先月号のいっぺいといっぱく「モノよりコト」というテーマで、経験や体験など心の充足を皆が求めるようになってきたとお話しましたが、このイベントもそんな時代の流れと価値観の変化から生まれた、新しいやり方だと感じました。

このことを職員に話したところ、「市長の知り合いは、随分おおらかな方ですね」と言われ、その意味がわかりませんでした。なぜそう思うのか聞き返したところ、「素人を集めて直してもらっても、きっとひどいできばえになってしまう、おおらかな性格じゃないと仕上がりに満足しないのでは」と言われました。

なるほど、そう思うのかと考えながら、職員に、土壁を塗ってみるとおおらかさについてわかるかもしれないよと話をしました。

おおらかさを学ぶ一番の方法は、自然から学ぶことだと思います。土壁は竹と泥で作る、とてもシンプルな、自然素材で作るものです。自然素材は、工場などで作る人工の素材とは違い、デコボコで、あいまいです。竹は一本一本違う太さで、違う場所に節があり、うまく割れないものもあり、どれ一つとして同じものはありません。自然は人間にとって都合の良いものばかりではないのです。春は毛虫が出てきて、夏は暑い、秋は落ち葉が落ちてきて、冬は寒い。そんな、都合が悪くても当たり前の事を、ありのままに受け入れるというおおらかさを学ぶには、人工物にかこまれた、便利な現代のくらしでは難しいかもしれません。

これからの時代には、おおらかさが必要になると思います。人口が減少する社会で、経済的にも労働力的にも厳しくなっていくと、社会にこれまでどおりのサービスを求めることはできなくなります。人工物でできあがったような、キッチリとしたルールやサービスを求めるのではなく、自然素材のような、デコボコであいまいなルールやサービスを受け入れる、おおらかさが社会に必要なんでしょう。

人間にとって都合が良いことばかりではなく、それでいてぬくもりのある、土壁のようなおおらかさ。それが必要になるのはルールやサービスに限りません。子育ても、人間関係も、人の生き方にもです。それは人間も自然だからです。



ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付



表紙の写真もう一枚

6月9日(土)、おんぱくオープニングコンサートが行われました。松ケ根公園からのパレードの後、おんぱくの始まりを告げるファンファーレが鳴り、コンサートはスタート。会場は素敵な演奏とたくさんの笑顔であふれていました。



スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!

App Store
Google Play
「マチイロ」で検索
ダウンロード

